

令和 4 年 6 月 12 日現在

機関番号：33908

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K03014

研究課題名(和文)日本人韓国語学習者の話し言葉に対する韓国人評価の研究

研究課題名(英文)A Study on How Koreans Estimate the Speech of Japanese Learners of Korean

研究代表者

崔文姫(CHOI, MOONHEE)

中京大学・教養教育研究院・教授

研究者番号：00599467

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、日本人韓国語学習者の発話に関する韓国語母語話者の評価調査を通して、学習者の発話に関する母語話者の評価観点および対人印象観点を明らかにした。また、母語話者が学習者に対して抱く印象に学習者の発話がどのように影響するかを検証し、発話に関する評価と対人印象に関する評価との因果関係を明らかにした。研究の結果、学習者の言語としての明瞭性だけでなく、抑揚や話すスピードなどのパラ言語情報および表情や視線などの非言語情報が母語話者の抱く学習者印象に大きく影響することが判明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、日本人韓国語学習者を対象に、韓国語母語話者の評価観点と評価の因果関係を探り、学習者の言語行動と学習者に抱く対人印象との関係を明らかにした。外国語学習者の言語行動がその人に抱く印象形成に影響することは、これまで多くの研究で判明しているが、韓国語学習者を対象にしたものは見られなかった点において本研究は意義のあるものと言える。この成果は、日本人韓国語学習者に対するコミュニケーション教育に応用できると考える。また、学習者のみならず韓国語母語話者にも情報を提供することで、ステレオタイプや誤解によって生じる悪い印象を回避し、異文化に属する者同士の円滑なコミュニケーションへつなげると考えられる。

研究成果の概要(英文)：On the basis of investigations of how Korean speeches made by Japanese learners of Korean are estimated by native speakers, this study has clarified what aspects and factors are involved when the native speakers hear the Japanese people's speeches and what types of impressions are made about the learners' personalities. Furthermore, the study has statistically analyzed how and in what respects the learners' speeches influence the impressions that the native speakers have, making clear the correlations between the estimation of speech and the estimation of likableness. The results indicate that the native speakers' feelings towards the learners are greatly influenced not only by the linguistic clarity of the learners but also by paralinguistic information, such as intonation and speech speed, and nonlinguistic information, such as facial expressions and eye movements.

研究分野：韓国語教育

キーワード：日本人韓国語学習者 話し言葉 韓国語母語話者の評価 発話の評価観点 対人印象観点 発話と対人印象の因果関係

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

韓国語学習者(以下、「学習者」と韓国語母語話者(以下、「母語話者」と)とのコミュニケーションにおいて、母語話者が学習者の発話をどのように捉えるのか、また、母語話者が学習者に対して抱く印象に学習者の言語・パラ言語および非言語的要素がどのように、どの程度影響を与えるのか。こうしたことについて実証的に検討していくことは、学習者と母語話者が円滑なコミュニケーションを行なうための指針として重要である。

申請者は、先行研究(2009・2012・2013a・2013b)において、日本語学習者に対して日本語母語話者がどのような評価を与えるかについて調査を行ない、日本語母語話者が日本語学習者を全体的にどのように評価し、その評価の流れにはどのような因果関係があるのかを検証した。その結果、日本語母語話者の評価には、複数の評価観点が互いに影響し合い、学習者への印象形成につながる事が確認され、さらに、日本語学習者の言語・非言語的特徴が日本語母語話者の学習者に対する印象形成に大きく影響することが明らかになった。

韓国語教育は日本語教育と相通じる部分が多く、日本語教育で得られた研究成果を韓国語教育に応用することが可能であり、またその逆も可能である。同時に、相違点も存在することが予想され、日本語教育では有効であってもそれを無条件で韓国語教育に応用するのは危険である。そのため、韓国語学習者を対象にした韓国語母語話者の評価研究に着手したが、研究開始当初の韓国語教育における母語話者の評価研究は、学習者の言語行動と対人印象との関係を明らかにしたものはほとんど存在せず、誤用の重みづけや教師の誤用訂正などといった面での評価が主だった。すなわち、学習者の発話能力(言語やパラ言語・非言語的特徴)と母語話者が学習者に対して抱く対人印象との因果関係については明らかにされてこなかった。そこで、本研究では、申請者の先行研究の手法に倣い、韓国語学習者に対する韓国語母語話者の評価調査を実施した。

## 2. 研究の目的

本研究は、日本人韓国語学習者の発話に対する韓国語母語話者の評価にどのような観点が働くのか、また母語話者が学習者に対して抱く印象にはどのような観点が働くのか、さらに、学習者の言語運用の評価と学習者に対して抱く印象との間にどのような関係があるのかを明らかにすることを目的とする。具体的には、日本人学習者の発話データを収集し、母語話者による評価を通じて学習者の発話に対する評価観点および対人印象観点を明らかにするとともに、統計処理などを行ない、現れた評価観点の因果関係を検証する。

## 3. 研究の方法

### (1) 学習者の発話(評価材料)収集

学習者の韓国語での発話場面を設定・調査し、ビデオで収録する。

### (2) 評価項目の作成

学習者の発話をもとに、先行研究および母語話者による評価の予備調査などを通じて、評価項目を作成する。

### (3) 母語話者による評価調査(質問紙調査)

学習者のストーリーテリング発話(音声データ)をもとにした母語話者の評価調査  
母語話者が学習者の発話を聞き、予め用意してある調査用紙に5段階で評価する。

学習者のインタビュー場面(映像データ)をもとにした母語話者の評価調査

学習者のインタビュー発話を母語話者が視聴し、予め用意してある調査用紙に5段階で評価する。

### (4) 発話に関する評価観点と対人印象観点の因果関係を検証

得られたデータを統計処理・分析し、評価の因果関係を検証する。

## 4. 研究成果

### (1) 評価項目の選定

「わかりやすさ」に関する評価項目

学習者の発話のわかりやすさに関する評価項目を作成するため、学習者のストーリーテリング発話(音声データ)をもとに、母語話者10名(韓国語教師4名・大学教員2名・大学生4名)による調査を実施した。学習者の発話のわかりやすさを5段階で評価し、その理由を記述した後、フォローアップインタビューに参加してもらった。その調査で得られた母語話者のコメントおよび記述内容を中心に分析し、「わかりやすさ」に関する評価項目を32個抽出した。

「発話に関する評価」項目および「対人印象に関する評価」項目

学習者のインタビュー場面の発話(映像データ)を母語話者に評価してもらうため、評価項目を選定した。主に先行研究を参考に評価項目を抜粋し、その項目の妥当性を確認するため、母語話者(韓国語教師4名・大学生4名)による予備調査を実施した。その結果、「発話に関する評価」項目は21個、「対人印象に関する評価」項目は20個を確定した。

以上のと で作成した評価項目をもとに、下記の(2)と(3)の評価調査を実施した。

(2) 学習者の発話の「わかりやすさ」に関する母語話者の評価観点

日本人学習者(中・上級レベル6名)のストーリーテリング発話に対する母語話者(さまざまな属性の母語話者173名)の評価調査を実施した。その結果、母語話者が学習者の発話を「わかりやすさ」の観点から判断する際には『話し方』『文法性』『(談話の)つながり』という3つの要素が潜在的に働くことが明らかになった。つまり、この3つの要因が、母語話者の「わかりやすさ」に関する評価の観点(判断基準)となる。そして、3つの評価観点が「わかりやすさ」に与える影響を検証した結果、そのうち、特に「流暢性」「積極性」「イントネーション」「話すスピード」「発音」などの要素で構成される学習者の『話し方』という観点が、「わかりやすさ」の評価に最も影響することが判明した。さらに、以下の図1からわかるように、3つの評価観点(『話し方』『文法性』『つながり』)が相互に絡み合っ「わかりやすさ」評価に影響することが確認された。すなわち、3つの評価観点が、程度は異なるものの、「わかりやすさ」の評価に直接的に影響を及ぼしており、また、互いに影響し合い(他の観点を經由し)間接的にも影響を与えることがわかった。

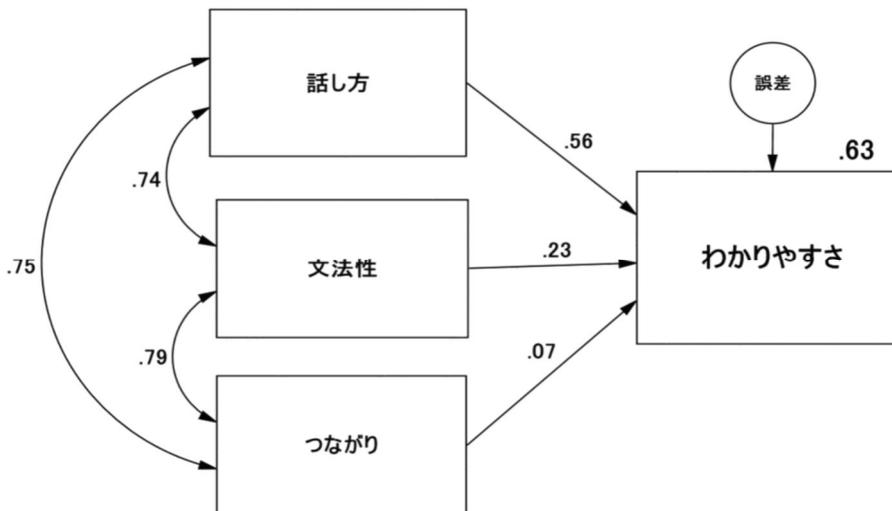


図1「わかりやすさ」に関する母語話者評価のパス図

(3) 学習者の発話に関する母語話者の評価観点および学習者に抱く対人印象観点

日本人学習者(中・上級レベル6名)<sup>1)</sup>のインタビュー場面の発話に対して、韓国人大学生73名(主に語学専攻、男子23名・女子50名)による評価の質問紙調査を実施した。なお、評価項目は「発話に関する評価」および「対人印象に関する評価」の2郡となっている(評価項目の詳細は、下記の表1<sup>2)</sup>と表2参照)。

調査データをもとに、最尤法・プロマックス回転を用いて因子分析を行った結果、大学生が学習者の発話の評価する際には『言語の明瞭性』『非言語情報』『パラ言語情報』という3つの潜在的観点が働くことが明らかになった。それぞれの評価観点を構成する項目について述べると、『言語の明瞭性』は、「語彙/表現の使用」「流暢」「明瞭な答え」「単語/語彙の選択」「文法使用」などの要素が中心となり、『非言語情報』は「表情」「態度」「外見」「視線」などの要素が中心となっている。また、『パラ言語情報』は「抑揚」「ポーズ」「速度」などの項目で構成される。なお、この3つの評価観点がそれぞれに対して強い正の相関関係にあることが確認され、そこから『言語の明瞭性』と『非言語情報』と『パラ言語情報』の評価が高ければ発話の評価も高くなり、この3つの評価が低ければ発話に関する評価も低くなると言える。

次に、大学生が学習者に対して抱く印象形成には『誠実性』『活動性』『神経質性』『利他性』という4つの潜在的観点が働くことが判明した。具体的に、それぞれの観点を構成する評価項目について述べると、『誠実性』は「几帳面」「責任感」「賢明」「計画性」「信頼」などの要素が中心となり、『活動性』は「活動的」「積極的」「社交的」「機転の良さ」「自信感」などが中心となっている。また、『神経質性』は「神経質的」「情緒不安」「気難しさ」で構成され、『利他性』は「親切」「寛大」「礼儀」「情け深さ」で構成される。なお、対人印象に関する4つの観点がそれぞれ有意な相関関係にあることが確認され、『誠実性』と『活動性』と『利他性』の評価が高ければ対人印象もよくなり、『神経質性』(負の相関関係)の評価は低ければ低いほど対人印象がよくなることがわかった。次の表1と表2に、評価項目の詳細とともに因子分析の結果について示す。

<sup>1)</sup> 前述した(1)の調査(ストーリーテリング発話評価調査)対象者とは異なる。

<sup>2)</sup> 21項目のうち「声の大きさ」と「身振り手振り」が因子分析で除外されたため19項目となっている。

表1 「発話に関する評価」項目の因子分析結果（最尤法・プロマックス回転）

項目内容	( $\alpha=0.92$ )	( $\alpha=0.73$ )	( $\alpha=0.85$ )
語彙や表現を正確に駆使する。(語彙/表現の使用)	<b>0.94</b>	-0.04	0.02
自分の考えを流暢に話す。(流暢)	<b>0.93</b>	0.02	-0.06
質問に対する答えが明瞭だ。(明瞭な答え)	<b>0.88</b>	0.07	-0.13
単語や語彙の選択が適切だ。(単語/語彙の選択)	<b>0.77</b>	0.04	0.05
文法を正確に使用する。(文法使用)	<b>0.75</b>	-0.08	0.19
表現力が豊富だ。(表現力)	<b>0.73</b>	0.07	0.08
言葉に詰まったり質問を理解できなかったりする時適切に対処する。(戦略)	<b>0.50</b>	0.04	0.30
話す内容が興味深い。(内容)	<b>0.42</b>	0.25	-0.01
フィラー(あ、えー、うーん、なんか等)の使用が多い。(フィラー)	<b>-0.34</b>	0.18	-0.19
表情が明るい。(表情)	0.00	<b>0.79</b>	-0.14
態度が協力的だ。(態度)	-0.06	<b>0.55</b>	0.25
外見が魅力的だ。(外見)	-0.01	<b>0.54</b>	-0.06
視線の処理が適切だ。(視線)	0.06	<b>0.45</b>	0.17
あいづちを適切に打つ。(あいづち)	-0.05	<b>0.44</b>	0.30
抑揚が自然だ。(抑揚)	<b>0.36</b>	-0.01	<b>0.52</b>
丁寧な話し方をする。(丁寧な話し方)	0.04	0.12	<b>0.52</b>
ポーズが適切だ。(ポーズ)	0.28	0.01	<b>0.52</b>
話すスピードが速い。(スピード)	0.28	-0.05	<b>0.49</b>
発音がいい。(発音)	<b>0.39</b>	-0.03	<b>0.49</b>
因子相関行列			
	—	0.52	0.73
		—	0.55

表2 「対人印象に関する評価」項目の因子分析結果（最尤法・プロマックス回転）

項目内容	( $\alpha=0.88$ )	( $\alpha=0.83$ )	( $\alpha=0.71$ )	( $\alpha=0.74$ )
几帳面だ。(几帳面)	<b>0.81</b>	-0.03	0.14	0.01
責任感が強い。(責任感)	<b>0.78</b>	0.05	0.00	-0.03
賢明だ。(賢明)	<b>0.77</b>	0.08	-0.03	-0.08
計画性が高い。(計画性)	<b>0.73</b>	0.10	-0.06	-0.14
信頼できる。(信頼)	<b>0.68</b>	0.10	-0.05	0.06
誠実だ。(誠実)	<b>0.64</b>	-0.05	0.07	0.25
思考が体系的だ。(体系的)	<b>0.60</b>	0.15	-0.05	-0.01
落ち着いた性格だ。(落ち着き)	<b>0.52</b>	<b>-0.51</b>	-0.03	0.29
活動的だ。(活動的)	-0.06	<b>0.80</b>	-0.03	-0.01
積極的だ。(積極的)	-0.01	<b>0.76</b>	-0.01	0.10
社交的だ。(社交的)	0.03	<b>0.75</b>	0.01	0.10
機転が効く。(機転の良さ)	0.09	<b>0.73</b>	-0.01	-0.02
自信(感)がある。(自信感)	0.10	<b>0.71</b>	0.08	0.07
神経質的だ。(神経質的)	0.04	0.07	<b>0.77</b>	-0.02
情緒が不安だ。(情緒不安)	-0.27	-0.03	<b>0.64</b>	0.23
気難しい性格だ。(気難しさ)	0.24	-0.03	<b>0.61</b>	-0.30
親切だ。(親切)	0.02	0.19	-0.07	<b>0.60</b>
他人に寛大だ。(寛大)	-0.07	0.20	0.06	<b>0.59</b>
礼儀正しい。(礼儀)	0.25	-0.08	-0.02	<b>0.48</b>
情が深い。(情け深さ)	0.23	0.28	-0.04	<b>0.35</b>
因子相関行列				
	—	0.42	-0.26	0.53
		—	-0.32	0.45
			—	-0.50

(4) 学習者の発話と対人印象との関係

学習者の発話が母語話者の(学習者に)抱く対人印象に与える影響を明らかにするため重回帰分析およびパス解析を通して検証した。その結果、発話の評価観点(『言語の明瞭性』『非言語情報』『パラ言語情報』)がそれぞれ『誠実性』『活動性』『神経質性』『利他性』という対人印象観点到に直接的・間接的に影響を与え、プラス評価にもマイナス評価にもつながることが検証された。

具体的には、『誠実性』印象に、『言語の明瞭性』と『非言語情報』が直接的に影響しており(特に『言語の明瞭性』の影響が大きい)、『活動性』や『利他性』印象も直接的に影響を与えていることがわかった。さらに、『言語の明瞭性』は『活動性』を経由し、『非言語情報』は『活動性』や『利他性』を経由し、間接的な評価にもつながっている。次に、『活動性』印象には、『言語の明瞭性』と『非言語情報』の2つの観点が直接的に影響を及ぼすことが判明し(特に『非言語情報』の影響が大きい)、『神経質性』印象には、『非言語情報』と『パラ言語情報』の2つの観点(負の因果関係)が影響していることがわかった。そして、『利他性』には、『非言語情報』と『パラ言語情報』のみならず『活動性』や『神経質性』印象も直接的に影響を与えており、『非言語情報』と『パラ言語情報』は両方とも『神経質性』を経由し、間接的にも評価につながっている。以下の図1に、大学生による評価の因果関係を表したパス図を示す。

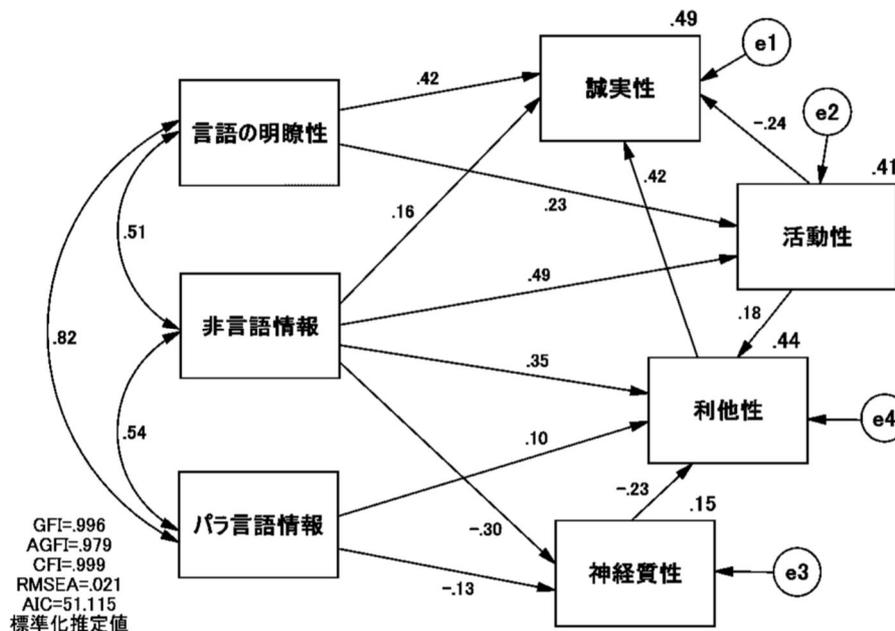


図2 「発話に関する評価」と「対人印象に関する評価」との因果関係

本研究の結果、韓国語学習者の言語的明瞭性だけでなく非言語的特徴やパラ言語的特徴が韓国語母語話者の抱く印象形成に大きく影響することが明らかになり、コミュニケーション教育における「非言語・パラ言語教育」の重要性が改めて示唆されたと言える。

最後に、今後の課題について挙げておきたい。上記(3)の調査において、研究当初の予定とは異なり、幅広い属性の母語話者ではなく主に大学生を中心とした調査にとどまった。コロナ禍で海外(韓国)への渡航および現地調査が不可能になったことが一番の理由として挙げられる。今後は大学生以外の一般の母語話者や韓国語教師を対象に同様の調査を行ない、母語話者全般の評価観点および一般の母語話者と韓国教師との相違点などを明らかにしたい。また、本研究では、発話場面がストーリーテリングおよびインタビューであったため中級レベル以上の学習者を対象に調査したが、学習者の韓国語運用能力によってコミュニケーション上の問題も異なってくる。従って、今後は調査方法などを工夫し、初級学習者に対しても同様の評価調査を実施したい。

<引用文献>

崔文姫(2009) 『日本語学習者に対する日本語母語話者の印象形成 - 学習者の発話に関する評価を基準に - 』、首都大学東京 博士論文  
 崔文姫(2012) 「日本語学習者に対する日本語母語話者の評価 - 共分散構造分析モデルに基づいて - 」 『人文学報』 458、23-48  
 崔文姫(2013a) 「中級レベル学習者と上級レベル学習者の発話に対する評価 - 日本語母語話者評価の因果関係モデル - 」 『日本文化學報』 56、韓国日本文化學會、143-160  
 崔文姫(2013b) 「日本語学習者の発話に対する日本語母語話者の評価 - 日本語教師と非日本語教師の因果モデルを中心に - 」 『国立国語研究所論集』 5、1-26

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 崔文姫	4. 巻 24
2. 論文標題 日本人韓国語学習者の話し言葉をいかに評価するか - 「わかりやすさ」の評価項目抽出 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 熊本県立大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 47-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 崔文姫	4. 巻 9
2. 論文標題 韓国語学習者の発話に対する一般の韓国人の評価 - 「わかりやすさ」に着目して -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 韓国語教育研究	6. 最初と最後の頁 177-197
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 崔文姫	4. 巻 15
2. 論文標題 日本人韓国語学習者の発話に対する韓国人大学生の評価 - 日本語専攻学生と非専攻学生の違い -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 朝鮮語教育 - 理論と実践 -	6. 最初と最後の頁 5-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 1件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 崔文姫
2. 発表標題 日本人韓国語学習者の発話に対する韓国人大学生の印象評価
3. 学会等名 朝鮮語教育学会 第88回例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 崔 文姫
2. 発表標題 韓国人大学生は日本人韓国語学習者の発話をいかに評価するか 発話と対人印象との関連を中心に
3. 学会等名 外国語教育学会 第25回研究報告大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 崔 文姫
2. 発表標題 発話に対する評価 - 学習者の韓国語を一般韓国人はどの観点から見るか -
3. 学会等名 2018年度熊本県立大学日本語日本文学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 崔 文姫
2. 発表標題 韓国語学習者の発話を一般の韓国人はどのように評価するか - 「わかりやすさ」の観点を中心に -
3. 学会等名 日本韓国語教育学会第9回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 崔 文姫
2. 発表標題 韓国語学習者の発話に対する韓国人大学生の評価 - 「わかりやすさ」に注目して -
3. 学会等名 外国語教育学会第22回研究報告大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------